

美の美

NPO 法人 湖東焼を育てる会

湖東焼は、江戸時代後期に彦根で焼かれた焼物です。13代井伊直弼^{なおすけ}の頃には、彦根藩が経営する藩窯^{はんよう}として黄金時代を迎え、当代の焼物を代表する高い完成度を示す焼物が焼成されました。ところが昨今では、「幻の湖東焼」と称されるほど、湖東焼の名前も作品も知られることが少なくなっていました。

私たちNPO法人湖東焼を育てる会では、これまで、湖東焼の講演会・展示会・絵付け^{えつけ}や作陶^{さくとう}の体験教室など多様な事業を実施して、かつて彦根に華開^{はな}いた湖東焼の普及と啓発に努めてきましたが、今年度は、新たに調査研究事業として湖東焼窯場跡で採集された資料の整理作業も行っています。

茶碗を制作し、抹茶を飲んでみませんか

NPO法人湖東焼を育てる会では、抹茶茶碗^{まっちゃわん}を制作し、窯で焼き、茶会を催して抹茶を飲もうという事業を開催します。この機会に、自分好みの本格的な抹茶茶碗を制作してみませんか。

事業の予定は以下のとおりです。みなさまのご参加をお待ちしています。

◆抹茶茶碗の制作

【日時】1月25日（日）午前の部 10:00～12:00・午後の部 14:00～16:00

【場所】アトリエ「^{あし}輦」

◆抹茶茶碗の焼成

【日時】2月28日（土）予定（天候により変更します）

【場所】「^{さらしやがま}晒屋窯」晒庵の登り窯

◆抹茶茶碗を用いた茶会

【日時】3月8日（日）10時～・11時～・13時～・14時～

【場所】旧善利組辻番所と足軽屋敷「旧磯島家」^{つじばんしよ}

■申し込み方法■

名前・住所・連絡先・1月25日の午前・午後の希望を書いて、郵送・FAX・メール等で申し込んでください。折り返し、詳細な案内を返送いたします。定員は50人。定員になりしだい閉め切らせていただきます。なお、材料費・窯燃料費等として1人2,000円が必要です。

NPO 法人 湖東焼を育てる会 事務局

〒522-0064 彦根市本町一丁目6-22

TEL.0749-24-6711 FAX.0749-24-8530

URL <http://www.kotoyaki.com>

E-mail : info@kotoyaki.com



井伊直弼自作の抹茶茶碗（彦根城博物館蔵）

湖東焼 絹屋窯の経営

「焼物に手を出すと身上を潰す」古くから語り継がれる戒めの語句です。焼物の経営は、土を作り、形を作り、素焼きをして形を整え、上薬を掛けて、最後に窯で本焼きをします。窯で本焼きをするまでに、何百個の半製品が準備され、一気に本窯で焼き上げて完成させます。本窯の焼き上げは、数日間昼夜を通して行われ、しかも割木1本で成否が分かるデリケートなものでした。

つまり、数ヶ月間かけて準備された半製品は、最後の数日間で成功か失敗かが決まるのです。失敗は身上を潰すことにもなりかねません。そこには、高い技術と経験が要求されるとともに、博打にも似た危険な魅力が潜んでいました。

古着商を本業とする絹屋半兵衛が、湖東焼に手を染めたのは、こうした焼物の魅力に取り付かれたからでしょう。それはベンチャーの心意気でもありました。

ただ、実際の窯場の経営は苦しく、収支勘定は赤字に傾きがちでした。絹屋窯は13年の間に、彦根藩から二度の資金援助を受けています。一度目は窯の破損の折に銀5貫目を。そして二度目は7年後に銀15貫目を。二度目の援助の際、一度目の返済がすべて終わっていたわけではありませんでした。なぜ、彦根藩はこんなにも絹屋窯を優遇したのでしょうか。絹屋の心意気に打たれたからでしょうか。実は、彦根藩には二度目の援助の時点で、絹屋窯を藩の直営にしようという思惑が生まれていたようです。



餅木谷(もちのきだに)の湖東焼窯場跡。背景に佐和山城跡を望み、右手には近江鉄道が走っています。

NPO 法人 湖東焼を育てる会 会員募集中

NPO 法人 湖東焼を育てる会では、随時入会希望者を募集しています。インターネットより入会申込書をダウンロードしていただき、郵送・FAX・メールでお申し込みください。年会費は5,000円です。ご入会いただくと

- ◆ 研修会などに参加できます。
- ◆ 年間1回の作陶を無料で体験できます。
- ◆ 機関紙などを送付します。

NPO 法人 湖東焼を育てる会 事務局

〒522-0064 彦根市本町一丁目 6-22

TEL.0749-24-6711 FAX.0749-24-8530

URL <http://www.kotoyaki.com> E-mail: info@kotoyaki.com